

奈良市における特定不妊治療
(体外受精・顕微授精) 等の実績について

健康医療部 母子保健課
令和5年1月

奈良市の状況

1. 特定不妊治療（体外受精・顕微授精）による出生児数（国の割合から予測）

令和2年 出生数 2,057人 × 0.07 = 144人

2. 特定不妊治療（体外受精・顕微授精）医療費助成申請数（男性不妊を含む）

年度	実人数	延件数
平成30年	240	408
令和元年	232	370
令和2年	237	374
令和3年	348	623

参考：
623件の13.2%（1回の治療から出生に至る確率）
= 82.2人

※令和3年1月から助成制度拡充（所得制限撤廃など）

特定不妊治療医療費助成状況 (令和元年度 奈良市助成実施状況より)

1. 1人あたりの平均助成件数 1.6回

助成回数	実人員	助成回数	実人員
1回	133 (57.3%)	4回	6 (2.6%)
2回	71 (30.6%)	5回	1 (0.4%)
3回	20 (8.6%)	6回	1 (0.4%)

令和元年度	
実人員	232人
延べ件数	370件

2. 助成回数等

年間助成回数 1～3回 合計97%
助成年数 1～3年 合計95%

3. 医療費支払期間 (令和3年度 奈良市不妊治療医療費支払期間調べ)

1回の治療について1～3か月以内に支払いが終わる人が全体の9割
2か月で終わる人 全体の5割

令和2年度 特定不妊治療 助成実績

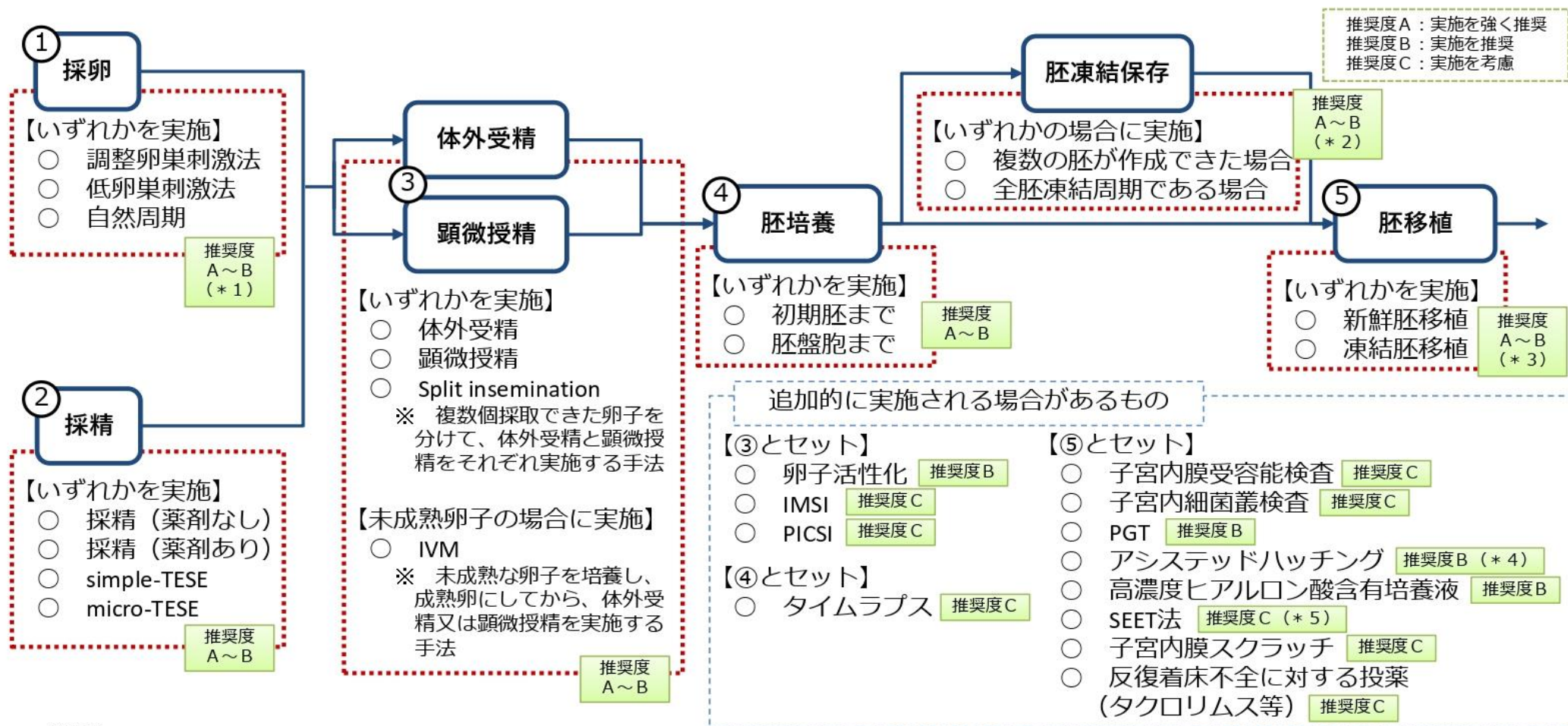
治療ステージ別内訳

治療ステージ		実人員数 (人)	延件数 (件)	1件あたり平均治療金額 (円)
A	体外受精	8	8	438,043
	顕微授精	12	12	532,560
B	体外受精	66	68	552,824
	顕微授精	105	122	612,297
C		98	134	199,168
D		4	4	354,960
E		18	19	336,706
F		5	6	100,662
男性不妊治療のみ		1	1	550,495
合 計		317	374	

特定不妊治療(体外受精・顕微授精)の治療ステージと治療内容

A	新鮮胚移植を実施
B	凍結胚移植を実施
C	以前に凍結した胚を解凍して胚移植を実施
D	体調不良等により移植のめどが立たず治療終了
E	受精できず または、胚の分割停止、変性、多精子受精などの異常受精等により中止
F	排卵したが卵が得られない、又は状態のよい卵が得られないため中止

○ 生殖補助医療の全体像（イメージ）に示した事項について、生殖医療ガイドラインにおける推奨度を追記したものを、以下に示す。



<補足>

- 生殖医療ガイドラインに記載されている医療技術等について整理したもの。
- それぞれのステップに、必要な検査・投薬等が含まれるものとする。

<注釈>

- * 1 卵巣刺激に係る記載を含む。なお、一部、推奨度 C（治療バリエーション間での有意差がない旨）の記載あり。
- * 2 凍結胚移植に係る記載を含む。
- * 3 一部、推奨度 C（治療バリエーションの選択に係る事項）の記載あり。
- * 4 一部、推奨度 C（多胎のリスクが否定できない旨）の記載あり。
- * 5 一部、推奨度 B（有害事象の発生には有意差を認めない旨）の記載あり。